

第1回 福岡空港回転翼機能移設事業 環境影響評価技術検討委員会

(議事要旨)

日 時：平成27年7月30日(木) 13:30～14:45

場 所：国土交通省福岡空港事務所 2階 A会議室

出席委員：

薛 孝夫 (西日本短期大学 特任教授)

田村 耕作 (日本野鳥の会 福岡支部 副支部長)

野上 敦嗣 (北九州市立大学 国際環境工学部 教授)

松藤 康司 (福岡大学 工学部 教授)

吉久 光一 (名城大学 学長)

<敬称略：五十音順>

議事要旨：

1. 委員会の設立について

- ・運営要領(案)が承認された。(平成27年7月30日付けで施行)
- ・委員の互選によって、松藤委員が委員長に選出された。
- ・委員会で委員に配布される資料は、透明性の確保を図る観点から原則公開とする旨、合意された。
- ・委員会の議事録は、意見及び質問、事務局の回答及び対応から構成される要旨とし、HPにて公表する旨、合意された。
- ・なお、種の保存・生息環境の保護等の観点から配慮が必要なものについては、配布資料及び議事要旨ともに委員の合意を得て該当箇所を非公開とする旨、合意された。

2. 福岡市環境影響評価条例に係る手続きについて

- ・事務局より、福岡市環境影響評価条例に係る手続きについて説明を行い、内容の了解がなされた。

3. 福岡空港回転翼機能移設事業に係る計画段階環境配慮書(案)について

- ・資料3「福岡空港回転翼機能移設事業に係る計画段階環境配慮書(案)」について、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、配慮書(案)の内容について了解が得られた。

【個別的事項】

■資料3-P9

委員：発着回数が単純平均で1日9機程度とある。今後、ヒストグラム等を準備し、日発着回数を多い順に並べ、高いほうから5%、10%等の値について分析していったら良いのではないか。

■資料3-P11、16

委員：環境影響の観点から案1が優位であることについて異論はないが、近傍（香椎）の風配図を見ると北西の風が多いようなので、今後の検討課題と思うが、飛砂を防ぐため防風林を設置するなど検討しても良いかと考える。

事務局：今後、事業者とも密に調整し検討する。

■資料3-P16

委員：掲載されている地図については、タイトルは「事業実施想定区域周辺図」とあるが、周辺の住宅は入っていない。周辺の範囲はどのように決めたのか。周辺の範囲の設定をするべきではないか。

事務局：ご指摘の図は、「人と自然との触れ合いの活動の場」の説明用に掲載した。例えばP9では広域の図にしており、説明内容によって範囲・縮尺を変えている。記載の方法について検討させていただきたい。

■資料3-P14、20

委員：「ヘリコプターの巡航速度が200km/hの場合、2kmの到達時間36秒」との記載は、離着陸時の話でもないもので、ここではあまり意味が無い。また、パワーレベルは音響パワーレベルと記載するとよい。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

委員：案1の受信点における予測値に53～62dBと幅があるのはなぜか。

事務局：格納庫による騒音低減効果の程度が周波数により異なるため、63～1000Hzという幅を持って試算した結果である。

委員：幅を持って試算した旨記載するほうが良い。音源から格納庫までの距離が近いほど騒音の減衰量が大きいため、当該距離は重要な情報である。ヘリコプターと格納庫までの距離を記載するほうが良い。

事務局：ご指摘を踏まえ修正する。

委員：既存資料をベースに作成されていることは理解しているが、P14（飛行音）からP20（地上音）の説明が飛躍している感がある。格納庫配置に関する複数案の評価（P20）に対しては、高度200m・半径500mの情報（P14）が役立っているとは思えない。

事務局：現地調査を実施する前の段階であることから、複数案で違いを示すことができるのは、現段階では地上音のみである。ご指摘を踏まえ資料の体裁を修正する。

■全般

委員：ヘリコプターも低騒音化しているのではないのか。将来的にも改良されるようなことはないのか。

事務局：過去より性能が上がっているのは事実である。個人的見解ではあるが、アセス上は、安全側を見込んで現状ベースで予測することになると考えている。

4. その他

- ・今後のスケジュールについて、事務局より説明を行った。

以上